

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」

# 茨城町の状況について 茨城町教育委員会

## 1 調査の対象・目的

小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象にして、令和5年4月18日（火）に実施されました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するために毎年実施されています。調査結果は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために活用されます。

## 2 調査の内容

### (1) 教科に関する調査【国語、算数・数学、英語（中学のみ）】

- ・知識及び技能、それらを活用する力を問う問題が一体化された調査です。
- ・英語は4年ぶり2度目となる調査で、「話すこと」調査については、1人1台端末を用いたオンライン方式により実施しました。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査です。



## 3 調査の結果と考察

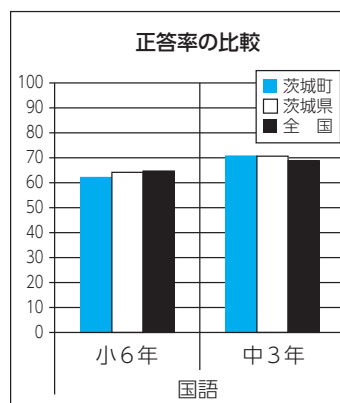
### (1) 教科に関する調査

小学校・中学校とも、日常生活に結び付けた問題が出題されていました。学校でも、授業の課題を工夫し、「学んだことが自分たちの生活につながっている」ことを実感できる授業をめざします。また、解き方や考えの根拠を説明する記述式の問題も出題されています。自分が考えたことを順序立てて伝える活動は各学校で行っていますが、今後は話し合ってから終わりにするのではなく、教科に応じた用語を用いて正確に書く活動も重視していきます。

### 国語（受験者数：小学校202名 中学校241名）

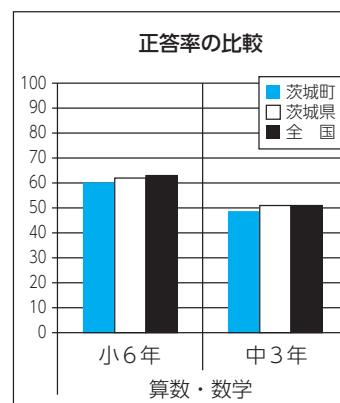
#### ○ 小学校について

ほぼ全国・県平均と等しい結果になりました。話や文章の中心となる言葉や文を捉えることは比較的よくできています。課題となるのは、複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることです。今後は授業で意見文を書く際にも、一つの資料だけでなく複数の資料を用意し、それらを比較したり関連付けたりしながら読み取った上で、自分の考えをまとめていく活動を積極的に取り入れていきます。



#### ○ 中学校について

全国平均をやや上回る結果となりました。特に聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる問題の正答率が高くなっていました。課題となるのは、読み手の立場に立って、自分の考えを書くことです。今後は自分の考えを事実・根拠を明確にして書く活動をさらに重視し、書いた文が目的に沿っているかを生徒同士で読み合ったり検討するなど、協働的に学ぶ場もつくっていきます。



### 算数・数学（受験者数：小学校202名 中学校240名）

#### ○ 小学校について

全国、県平均をともにやや下回る結果となりましたが、かけ算や割り算を用いて計算したり、筆算の仕組みを答えたりする問題の正答率は全国平均を上回りました。一方で、台形や正三角形など図形の性質の理解を問う問題で正答率が低くなりました。具体物を使用したり実際に作図したりする活動を大切に、実感をもたせて図形の性質を理解できるようにしていきます。

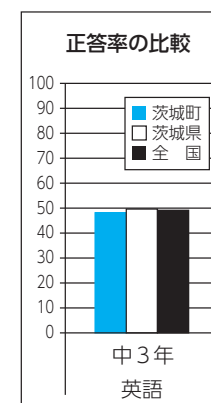
#### ○ 中学校について

全国、県平均をともに下回る結果となりました。基礎的・基本的な計算技能を問う問題の正答率も全国平均を下回っており、複数教員による指導や1人1台端末を活用した反復練習・習熟度に応じた学習をさらに充実させていく必要があります。また、小学校と同様に図形に関する問題の正答率も低く、辺や角など図形を構成する要素に着目して、論理的に考察できるように指導を充実させていきます。

### 英語（受験者数：中学校240名）

「話すこと」は参考値となるため、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果で正答率を出しています。

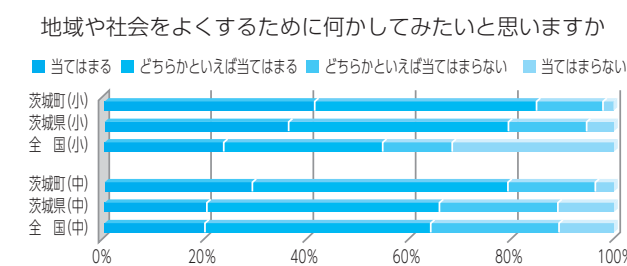
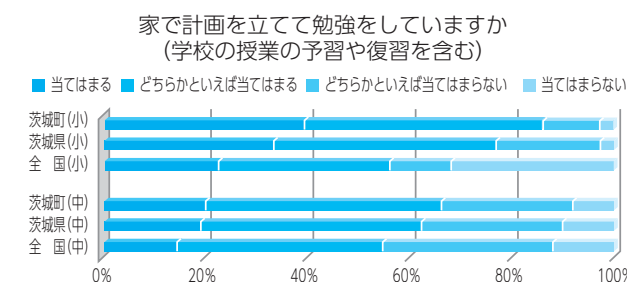
全国、県平均をともに下回る結果となりましたが、日常的话题に関する英文を聞いて、必要な情報を正しく聞き取る問題で全国を上回りました。外国人英語指導助手による音声指導や、デジタル教材の活用を今後も継続し、自然な速さの英語を聞くことに慣らしていきます。課題となったのは「書くこと」です。授業の中で、テーマに応じてまとまりある文を書く機会をさらに増やしていくよう改善を図っています。学級を2つに分けて少人数にしたり、複数教員で授業を担当したりし、きめ細やかな指導を大切にしていきます。



### (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

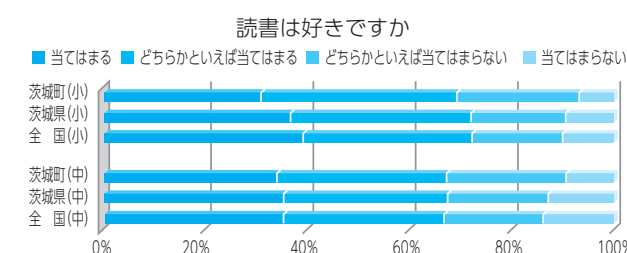
#### 全国平均を上回った主な質問項目

小・中学校とも、「家で計画を立てて勉強している」と回答している割合が高かったです。学校でも「家庭学習の手引き」等を作って指導していますが、今後も家庭と協力し、学習習慣の定着を図っていきます。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という児童生徒の割合も高かったです。地域の行事に参加している割合も全国平均を上回っており、地域とのつながりも持っていることが回答に影響していると考えられます。



#### 全国平均を下回った主な質問項目

昨年同様、読書が好きだと回答する児童生徒の割合が全国平均を下回りました。学校では読み聞かせやブックトーク等、本に関心をもてるような場を設定していきます。読書が好きだと回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。



また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合も、中学生では全国平均を下回りました。教員と生徒の日頃の関わりを大切に信頼関係を築くと共に、オンライン相談や生活アンケート、個別相談の場を設け、相談しやすい環境づくりに努めます。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、生徒に寄り添った対応をしていきます。

